

◎ ファミリーバドミントン

- ・ サービス時の審判の役割に関して
 - ⇒ポールの延長線上を通過する(フォルト)の判断は、主審と副審で判定する
 - ⇒正しい判定を行うため、主審は必ずしも審判台に着席しなくてもよい
 - ⇒タッチネットなどの判定は、インプレー中かどうかを基準とする
 - ⇒インプレー中にシャトルが破損した場合は、レットで再開する

- ・ サーブについて
 - ⇒サービスを行った時点で、前足が床に接していればOKとする
(踏み込みと同時にサービスを行うのは認められない)
 - ⇒サービスした後のラインクロス判定は、シャトルが相手コートに入っているかどうかを基準とする

- ・ サービス時の前衛の立ち位置について
 - ⇒競技規則上の規定はない(特に指定はない)

- ・ 審判への抗議について
 - ⇒監督以外の抗議は認めない(受け付けない)

第34回浜松市民レクリエーション・スポーツ大会審判講習会 確認事項

◎ スーパードッジ

- ・ 審判についての確認
 - ⇒主審はボールの行方を追い、選手のヒットを確認する
(できるだけホイッスルと同時にハンドシグナルを行う)
 - ⇒副審は周りに見えるように、投球がパスかアタックかどうか分かるよう、パスの回数を指で指し示す
 - ⇒線審はライン上のボールに加えて、選手のラインクロスも判定する
- ・ 選手交代、タイムについて
 - ⇒要求側の「マイボール」になったタイミングで行う
(その際は時間を止める)
 - ⇒上記のタイミングとなるまでは、主審はそれを実行しない
(相手ボールとなった場合は、次のタイミングまで)
- ・ 選手のエントリーについて
 - ⇒原則男女別の開催であるが、どうしても規定数が確保できない場合について
男子チームに女子が入るのはやむを得ない ※女子チームに男子はNG
(ただし、チームで安全への配慮をきちんと行うこと)
 - ⇒1～2年生のメンバー登録は、安全面を考慮して対応しない
(他のメンバーと体力差が大きすぎるため)

◎ ビーチボール

- ・ サーブについて
 - ⇒サーバーは、ネットに「足」「体」を平行にして静止して構える
 - ⇒足を1歩踏みこんでのサーブは良いが、2歩目の動き出しはファウルとなる
 - ⇒サーブの際に、ラインを踏むか踏み越えてしまった場合はファウルとなる

- ・ ネット上のプレーについて
 - ⇒両チームの選手がネット上でボールを押し合い、ネット上でボールが静止した場合はダブルファウルとしてプレーをやりなおす
 - ⇒両チームの選手が、ネット上で同時にボールを押し合ったり、ブロックした結果いずれのコートに落ちた時点で反対コートの選手が最後に触れたと考える
その場合ネット上でプレーした選手が、続けて落ちたボールをプレーできる

- ・ ポール・アンテナについて
 - ⇒ファウルとなるのは、ボールを「ポール」「アンテナ」に先に当てた側である

- ・ ローテーション表について
 - ⇒第34回大会は、審判団・各チームが適切な管理を行うと判断し、使用しない

- ・ タイブ레이크について
 - ⇒サーブ権は、じゃんけんの勝敗で決定する
 - 予選リーグは、「5：5」から開始する
 - 決勝は「0：0」から、どちらかが5点先取した時点でコートチェンジする